

献辞

Basu Dipak Rag 教授は、1979年にバーミンガム大学大学院博士課程を修了後、オックスフォード大学、ランカスター大学、ウェールズ大学、ケント大学で研究員や講師、サウジアラビア外務省国際経済エコノミストやマグローヒルデータリソース社上級エコノミスト等をご歴任された後、1995年4月に長崎大学経済学部教授としてご着任され、2016年3月にご定年により退職されました。長崎大学は、Basu 先生の在任中の業績を讃え、長崎大学名誉教授の称号を授与しました。

先生は、長年にわたり、本学部および研究科（博士前期課程・後期課程）において、国際経済学、国際経済学特講、国際経済学特論等の講義や演習を英語により実施されてこられました。また、諸外国の政治や歴史、社会や文化の解説を通じて、外国人留学生への教育にも熱心に携わっていただきました。

研究面では、“Structural Revolution in International Business Architecture, Vol.1 (Modeling and Analysis) and Vol.2 (Political Economy)” (Palgrave-Macmillan 社) を始めとする13冊の著作と80本を超える論文を発表しておられます。1986年から1988年には“Middle East and Africa Review” (McGraw-Hill, New York), 1998年には“The Japanese Economy”, the special volume (Vol.26 No.5) (M. E. Sharpe, New York) の編集、International Journal of Decision Sciences や Risk and Management の編集者会議の委員も務められました。また、学会での精力的な研究報告に加え、海外ではインドやイギリス、日本でも長崎通訳者協会や長崎税関等で、国際関係や国際経済に関連する講演も行っておられます。

2013年2月には、当時の駐日インド大使である Deepa Gopalan Wadhwa 大使を本学部にお招きして、学生対象の講演会を開きましたが、このきっかけを作ったのは先生でした。Wadhwa 大使によるアジアにおける外交や経済問題についての話とその後の討論は、当日参加した本学部学生に

も心に残ったものと思います。

このように Basu 先生は、長年にわたり本学部の教育や研究に多大な貢献をされてこられました。ここに、教職員を代表して改めて感謝申し上げますとともに、今後のご健勝とご活躍を祈念して、献辞とさせていただきます。

2016年8月

長崎大学経済学会長

長崎大学経済学部長

岡 田 裕 正



Basu Dipak Rag 教授